

2023

12.6 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

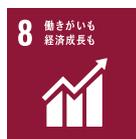
登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_2\\_DMepbzTeeAlNxn-K5A](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_2_DMepbzTeeAlNxn-K5A)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

## シリアスゲームデザイン

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

シリアスゲーム

ゲーミフィケーション

ヘルスケア

メタバース

松隈 浩之 准教授

九州大学 芸術工学研究院 ストラテジックデザイン部門

1994年 九州芸術工科大学画像設計学科卒業  
 1996年 同大学院情報伝達専攻修士課程修了  
 1997年 凸版印刷株式会社グラフィックアート  
 ラボラトリー GALA 勤務  
 2003年 九州芸術工科大学 講師  
 現 在 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授

大学院：ストラテジックデザインコース担当  
 学 部：メディアデザインコース担当

日本デジタルゲーム学会、日本デザイン学会、情報  
 処理学会、アジアデジタルアートアンドデザイン学  
 会会員。日本デジタルゲーム学会理事。アジアデジ  
 タルアート大賞展実行委員会事務局長。

社会問題の解決を目的とした「シリアスゲーム」や  
 ゲームの要素を他の領域で活用する「ゲーミフィ  
 ケーション」が専門領域。具体的な活動として高齢  
 者のリハビリ・ヘルスケアを支援するゲームを開発・  
 研究するシリアスゲームプロジェクトを推進してい  
 ます。また、福岡ゲーム産業機構というゲーム企業、  
 福岡市、九州大学の産官学連携による活動にも参加  
 しています。関連して、メディア芸術分野の活性化  
 を標榜した『アジアデジタルアート大賞展』という  
 アートコンペティションの運営にも力をいれていま  
 す。

社会問題の解決を目的に据えたデジタルゲー  
 ムのことをシリアスゲームといいます。  
 2009年からリハビリ・ヘルスケアを主なテー  
 マにシリアスゲームプロジェクトを推進して  
 おり、この活動について、事例を交えながら  
 お話しします。またコロナ禍以降のリアルと  
 バーチャルが重なった社会環境に合わせて制  
 作したメタバースコンテンツや芸術工学部が  
 主体で実施しているアジアデジタルアート大  
 賞展についても紹介します。

2023

12.13 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_AgpKWJb-Tkqeb\\_LU4DFkkg](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_AgpKWJb-Tkqeb_LU4DFkkg)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# サイエンスコミュニケーションとは？ その重要性とは？

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



## Key Words

サイエンスコミュニケーション

教育

アウトリーチ活動

広報

パブリックエンゲージメント

ダニエラ・エレンビ 学術推進専門員

広報本部

イギリスのレディング生まれです。2017年にオックスフォード大学で生物科学の学士号を取得後、2019年にインペリアル・カレッジ・ロンドンでサイエンスコミュニケーションの修士号を取得しました。同年11月に来日し、沖縄科学技術大学院大学(OIST)でサイエンスコミュニケーションに就任しました。OISTでは、サイエンスコミュニケーションとして研究成果を世界に発信するだけでなく、2022年よりJapan SciCom Forum (JSF)のチームメンバーとして活動を開始し、同年にOISTで開催されたJSF 2022のオーガナイザーも務めました。JSFはサイエンスコミュニケーションのコミュニティで、日本において英語によるサイエンスコミュニケーションを促進することを目的としている学会です。2023年7月から、現職である九州大学広報本部学術推進専門員(サイエンスコミュニケーション)を務めています。

「私はサイエンスコミュニケーションです」と伝えると、多くの人は困惑した表情で「サイエンスコミュニケーションって何ですか?」と尋ねてきます。多くの人が戸惑うのも当然で、サイエンスコミュニケーションはとても曖昧に定義されており、その範囲は非常に広く、科学ジャーナリズムや科学におけるアウトリーチ活動から、科学政策(学術政策)やヘルスコミュニケーションに至るまで、幅広い分野が含まれています。しかしその本質はシンプルで、サイエンスコミュニケーションは、科学と社会の架け橋となり、地元の人々や世界中の人々に向けて、学術分野の重要な研究成果をわかりやすく発信し、教育し、科学に関心を持ってもらうことを目的としています。こういったサイエンスコミュニケーションは、多くの場合、学術機関の広報などを通じて組織レベルで行われるか、あるいは科学者自身によって行われています。今回のセミナーでは、日本の学術機関におけるサイエンスコミュニケーション活動の現状、その重要性、そして効果的なサイエンスコミュニケーションが科学者と一般市民にとってどのように役に立つのかについてお話しします。

2023

12.20 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_IWGjh6FVTJyI6U4iHOqgrA](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_IWGjh6FVTJyI6U4iHOqgrA)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 味覚と健康

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



## Key Words

味覚

味覚受容体

味覚障害

高血圧

肥満

糖尿病

## 重村 憲徳 教授

歯学研究院 歯学部門

出身：兵庫県加古川市、1996年：九州大学歯学部卒業（歯科医師）、2000年：九州大学大学院・博士（歯学）、2000年：生物系特定産業技術研究推進機構・派遣研究員、2001年：九州大学大学院歯学研究院歯学部門・助手、2006年：九州大学大学院歯学研究院歯学部門・講師、2008年：九州大学大学院歯学研究院歯学部門・准教授、2016年：九州大学大学院歯学研究院歯学部門・教授

味覚の受容や情報伝達の研究は、近年の分子生物学の発展に伴いダイナミックに展開しており、多くの謎が急速に解き明かされようとしている。本発表では、味覚の一般的な特徴（受容や情報伝達メカニズム）とその生理学的役割について概説し、加えて、QOLの低下や体内栄養バランスの乱れにも影響する「味覚障害」の発症原因について、これまでの我々の研究も交えて紹介させて頂きたいと思っております。